



花乱れ咲く**柏陽**

恵庭市立柏陽中学校 校長室から

令和7年2月17日（月）18号

校長 前田 真志

<私立入試 A から B へ。1・2 年生は学年末テスト終える>

時期がずれての降雪があり、心配された私立A日程入試が終わり、今週は私立B日程入試です。

1・2年生は、先週学年末テストを終えました。1年後、2年後へ向けた「受験」を意識して試験に臨んでくれたと思います。

2月12日（水）の5校時には、3年生が私立A日程入試へ向けた事前集会を行いました。私立A日程入試の受験生徒は、35名、B日程は25名です。

全体講話として、進路担当の教諭、学年主任から心構えと諸注意を受けていました。特に、交通機関利用や、テスト以外の待機時間やテスト後の会場を後にするところ、それを含めて受験であり、他の人から様子を見られているのです、ということ強調しておりました。確かにその通りだと思います。多くの社会人の方と出勤時の交通機関で一緒になること、また、試験開始前から集中して臨むためにも、落ち着いた行動は必要です。朝の段階では、無事試験会場に向かっていることがわかりほっとしました。明日の私立B日程入試や、公立入試も同様です。今日を含めて、3年生は卒業式までの登校が18日となります。一日一日を大切に過ごしてほしいと思います。



1・2年生は、1年間の締めくくりのテストでした。木曜日は3時間、金曜日は4時間で各教科の試験を受けました。採点等のために放課後の活動はありませんでしたが（大会を前日となる部活動は、金曜日のみ活動をしました）今週はテスト返却があり、その後の開放感に浸りすぎることなく、落ち着いた行動を心がけるよう各担任から指導をしております。保護者の皆様におかれましても、進級に向けた学習習慣の定着に御協力をお願い申し上げます。AIドリルの活用が有効です。

1・2年生にとっては、卒業式への取組が始まり、修了式までもわずかの日数となります。生徒一人一人がこの1年間を振り返り、学習では復習を、生活では締めくくる緊張感をもった生活を送ってほしいと思います。

<44年前の開校時からの伝統を思う>

2月14日（金）に、開校当初から8年間柏陽中に勤務された田中康夫先生が、恵庭市教育委員会に、当時法務省から表彰を受けた花壇コンクールに関わる資料を贈呈いただきました。その場に私も立ち会わせていただき、お話を聞かせていただきました。

当時の近藤智義初代校長が、恵庭中学校から分離して、地域にあった文化を根付かせるとおっしゃられ、その一つに花壇活動がありました。その伝統は、現在も脈々と続いております。

2月11日（火）には、花いっぱいコンクールで、令和6年度緑賞を受賞しました。今後とも花壇に関わる作業が「師弟同行」の柏陽中の基盤となる大切な取組であることを認識して、令和7年度も活動を行っていきます。地域、保護者の皆様の御協力をお願い申し上げます。